

令和2年度学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校）

目指す学校像	・地域に根ざし、高い志を持ち、社会に貢献できる生徒を育む学校
--------	--------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ステップアップクラス編成を中心に、学力向上と進路実現を目指す 2 人間としての在り方生き方教育を進め、高い志を育成し、自己実現を目指す 3 開かれた学校として情報を発信し、地域に根ざした魅力ある学校を目指す 4 教職員の働き方改革に向けて学校全体で業務の見直しや効率化を推進する
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校評議員会・学校評価懇話会 書面開催 委員9名から意見等を聴取
--

学 校 自 己 評 価					年度評価（2月1日現在）		
年 度 目 標					年度評価（2月1日現在）		
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】</p> ステップアップクラス編成により生徒の多様な進路希望に応え成果を上げている。英語検定受験が定着し、上位級へチャレンジする生徒が年々増加している。長期休業中の進学補講も計画的に実施できている。第2学年のアドバンストクラスにおいては模試の全員受験を実施している。 <p>【課題】</p> 学習習慣を確立させる取組を検討し進めることが必要である。 新校のコンセプトを見据え新校につなげていく教育課程を検討し編成する。 主体的・対話的で深い学びを実践するため探究的な学習を研究し実践する。	生徒の学ぶ意欲を高める取組を推進する	<ol style="list-style-type: none"> ①ステップアップクラス編成に変わるシステムを研究し検討する。 ②学校全体で英語検定を奨励し実施する。 ③生徒の学習状況を把握し、学習意欲の向上を図るため、Google クラクルームを活用する。 ④臨時休業中の学習保障の観点からスタディサブリを導入し、年間を通じて活用する。 ⑤探究的な学びとICTを活用した授業を研究する研修会を実施する。 ⑥新学習指導要領を研究し、新校につなげていく教育課程を検討し編成する。 ⑦自習室の利用を促進する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①検討ができたか。 ②準2級の合格者が大幅に増加したか。 ③学習面や生活面を指導するためにクラクルームを活用できたか。 ④スタディサブリを導入し、学習時間が増えたか。 ⑤授業研修会が実施できたか。 ⑥教育課程を検討し編成できたか。 ⑦自習室の環境が整い、利用者が増えたか。 	コロナ禍のため教育指導計画を見直しながら授業確保に努め教育活動を展開した。 ①単位制に移行し特色ある教育課程の編成に向けて研究し検討を進めた。 ②英語検定合格者は、準1級1名、2級1名、準2級16名、3級80名。準2級合格者は、昨年度より9名増加した。 ③臨時休校期間中、クラクルームを活用し、毎日5コマの授業を用意。課題の指示や動画を配信し学習保障を行うとともに健康観察も行った。 ④学習時間については昨年度並みであった。活用方法を研究し周知する必要がある。 ⑤10月、外部講師を招き研修会を実施し、また、リモート研修会に複数回参加し、探究的な学びについての知識が深まり意識も高まった。 ⑥教育課程の研究を続け、ほぼ編成ができた。 ⑦学習スペースの拡張と放課後の理科室の開放で利用者が増加した。また、ホワイトボードを設置し学習環境を整備した。	A	単位制移行に伴い、現在実施している少人数学級編成、少人数授業、習熟度別授業を検証し、継続するかなど検討する必要がある。 学習時間が増え、学習習慣が確立できるよう、学習支援コンテンツの活用方法など研究する必要がある。 新校における教育課程を研究し編成することが課題である。
2	<p>【現状】</p> 登校指導（毎月）や学年集会（各学期）での重点化した生徒指導により、生徒の整容について一定の改善がなされた。 部活動の加入者が増加傾向にあり、活気が出てきている。 <p>【課題】</p> 遅刻者を減らし、基本的な生活習慣をより確立させるための具体的な取組を行う必要がある。 整容指導については全職員で組織的に粘り強く指導をする必要がある。 時代に合った指導を研究し効果を上げる方策を検討する必要がある。	学校行事や部活動の活性化を通して生徒の自己肯定感を高める	<ol style="list-style-type: none"> ①遅刻者を減らすために遅刻カードを導入し実施する。 ②全校で統一した基準による整容指導等を全教職員で行う。 ③面談等を行い生徒の実態を把握し、必要に応じ、適切に関係機関につなげる。 ④緊急事態を受けて、各行事を精選した上で内容の濃い行事を実施する。 ⑤部活動を奨励し3年間熱心に活動できる体制をつくる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①遅刻者が減少したか。 ②年度当初の整容を維持できたか。 ③外部機関と適切に連携できたか。 ④実施行事を充実させられたか。 ⑤3年間熱心に活動できたか。 	教育活動のあらゆる場面で丁寧に指導・支援を行った。 ①6月から12月までの遅刻者数は、前年度比38%減となった。 ②登校時、授業時、定期考査時などで整容指導を実施し、当初の整容を維持している。 ③支援の必要な生徒に対し、SCに25名、SSWに15名の面談を要請し適切な対応を行った。 ④文化祭及び芸術鑑賞会は中止したが、11月にウォーク21、体育祭の代替でスポーツ大会を12月に実施した。 ⑤活動中止期間があったが、年間を通じて活動ができる期間は熱心に集中して活動ができた。	A	遅刻者がさらに減少するよう生徒指導部が中心となり、学校全体で取り組む必要がある。今後も整容指導について粘り強く継続して取り組んでいく。 支援が必要な生徒について、教育相談委員会が中心となり、学年、外部機関と連携し、組織的に取り組んでいくことが課題である。
3	<p>【現状】</p> 部活動での小中学校との連携や算数ボランティア、ゴミゼロ運動など学校外で生徒が活動し貢献する機会をいただいている。また、生徒募集事業では全教職員が協力して、本校の魅力ある取組を発信している。 <p>【課題】</p> ボランティア活動への参加。 ホームページの更新と内容の充実を積極的に行い、さらに地域の新聞などを活用して、本校の魅力を発信する機会を増やす。 新校の骨子を見据え、地域の人的資源とICTの活用を検討する必要がある。	地域連携と学校の魅力発信の推進に取り組む	<ol style="list-style-type: none"> ①探究的な学びを進める上で地域との連携を図る。 ②生徒の学びを充実させるため、地域の人的資源を活用する。 ③ホームページを大幅にリニューアルし目的に合った情報発信をすると共に一斉メールを活用し保護者へ円滑な連絡を行う。 ④緊急事態のため、学校説明会の時期と方法を検討し内容の充実を図り、意識の高い中学生の参加を促す。 ⑤管理職・中高連携委員会を中心に塾等へ生徒募集を行う。 ⑥中高連絡会を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①具体的な連携が図れたか。 ②地域の人的資源を活用できたか。 ③ホームページを大幅にリニューアルできたか。また、一斉メールを活用し、適切に情報発信ができたか。 ④⑤⑥より効率的な学校説明会等を実施し、入試の倍率が1.10倍以上となったか。 	地域との連携をさらに進め、地域の資源の活用を図った。また、コロナ禍の中、学校説明会を工夫し、本校の取組・魅力を発信した。 ①飯能市観光エコツーリズム推進課と協働関係を築き、観光資源の授業での活用についての情報交換を実施した。商工会議所と連携し、産業界における授業活用を現在検討している。 ②7月、商工会議所等との連携により就職模擬面接会を、10月、大学、短大、専門学校と連携し、進学模擬面接会を実施した。 ③日々の活動状況が一目でわかるレイアウトに変更し、更新数は330回以上となり大幅に増加した。また、ホームページに配布物の掲載と一斉メールの配信を行い、保護者に必要な情報を発信した。 ④8月、市民会館において、10、11月は校内において学校説明会を実施し、12、1月は感染症対策を講じた上で少人数での説明会を計10回、また、2月、個別相談会を実施した。 ⑤⑥コロナ禍のため塾へ資料提供をし、本校に招いての中高連絡会は中止とした。	A	今年度関係を築いた飯能市及び商工会議所等と協働し、「探究的な学び」の具現化を図り、実践していくことが課題である。 新校開校を見据え、今後の本校の教育方針を検討し定め、外部に発信していく必要がある。
4	<p>【現状】</p> 業務の量や様々な対応が増えたことから在在校等時間が増え多忙となっている。また、昨年度から各種委員会等で新校に関する準備及び検討を開始しさらに多忙となっている。 <p>【課題】</p> 業務の見直し及び効率化を進める必要がある。	教育活動評価シートに位置づけ、各分掌等で業務の洗い出し及び見直しを進める	<ol style="list-style-type: none"> ①各分掌・学年等で業務の進捗や業務の内容・分掌を確認し、必要に応じて見直しを行う。 ②各教科で教材等の共有を進める。 ③部活動の活動計画を見直し、効率的な活動を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①業務の見直しについて、検討できたか。 ②教材の共有化が図られたか。 ③部活動に関わる基本方針に基づき、適切に休養日を設定できたか。 	組織で校務負担軽減のための方策を検討した。 ①業務の集中を是正するため校務分掌組織を見直し、再編を図った。現在、委員会の構成人数等を検討している。 ②共通テストの実施、各学年共通のプリントや動画の配信によって共有化を図った。 ③活動計画の中で休養日を適切に設け活動した。	B	校務分掌の再編によって業務の集中が是正されたか、組織の人数が適切であるか検証する必要がある。

学校関係者評価
実施日令和3年2月24日(書面開催)
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な進路希望を受けてのクラス編成には成果が出てきている。それは、英語力向上（検定の導入や受験者数の増加等）をはじめとする様々な施策によるものである。これは、ひとえに教職員の地道な努力によるもの。 ・今後、新校の教育課程や単位制移行に伴う編成に期待する。 ・学校全体で取り組んでいる英検の合格者が増加していることは素晴らしい成果である。英検取得を目標にしている飯高受験者が多くいる。 ・飯高生の根本的な課題である「学習習慣の確立」は、生活指導と結びつき、家庭の協力が必須。保護者の意識を変えることから、地道に進める必要がある。ただし、この意識を変えなければならない保護者の割合がどれくらいなのか、把握する必要があり、保護者への啓発こそが学校をあげての仕事だと思う。 ・大学との連携を積極的に進めることに期待する。
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者カードの導入や整容指導等の成果が数値で表れ、成果をあげている。引き続ききめ細かな対応を継続していくことを期待している。 ・学習アンケートの結果から、家庭での予習・復習の取組が心配である。 ・コロナ禍で様々な行事が中止となる中、11月にウォーク21、スポーツ大会が実施できたことは、先生、生徒の皆さんの努力の賜物と思う。今後も新しい生活様式に沿った行事等を内容を含め検討する必要があると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で学校説明会を工夫して実施していただきありがたく思う。 ・ホームページの活用（リニューアルや更新増）に成果が出ている。保護者からの評判もよい。緊急時だからこそ、情報を多くの方に発信し、「学校を開くこと」に力を注いでほしい。 ・地域との連携は、軌道に乗ってきている。より拡大に進むのか、窓口を絞るのか、検討をする時期にきていると感じる。 ・商工会議所として、学校の情報発信や新たな事業展開などに協力していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の負担増への改善について、職場内でより会話が大切であると考える。委員会等の改善に向けての様子が変わる。今後に期待する。 ・働き方改革について、非常に難しい問題だが、適正な業務分担の見直し、意識の共有が重要だと思う。それには、職員が自分だけで抱えない、業務の効率化を組織全体で自覚し、随時確認し合うことが重要だと考える。

